



2010.12.8
第143号

発行
村会支会
町議支支
市員津支
教委協津支
県教育事務
島津教育
福津教育
教連北耶
北耶両

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

「会津人の誇り 若松賤子」



会津教育事務所域内三支会連絡会
会長 前田智子
(会津若松市教育委員会委員長)

それは一冊の本との出会いから始まった。昭和56年会津若松市教育委員会発行の副読本『すばらしい先輩たち 会津人のほこり』である。

二年前、戊辰戦争について、その頃生きた女性について書いてみないか、という依頼がきた。突然の話で戸惑ったが、中学校時代の恩師を訪ね、この本の存在を知った。会津が生んだ11名の人物を、小中学生向けに読みやすく紹介している本だった。そのなかで、若松賤子という女性に強く惹かれた。

フランスス・ホジソン・バーネット原作『Little Lord Fauntleroy』を『小公子』という

児童文学として日本に紹介した若松賤子は、元治元年（一八六四）に会津藩士の長女として生まれた。落城後母が死亡し、隠密だった父は北海道へ渡っていったため、養女として横浜に引きとられる。そこでアメリカ人宣教師の塾、のちのフェリス・セミナリーで当時最高水準の教育を受ける。その後結婚し、一男二女を生み育て、翻訳のみならず創作童話やエッセイを次々と発表する。また夫の経営する明治女学校では、英語学の教師でもあった。それらの活動は、32才という若さで生涯を終えるまで続いた。

賤子が夫である巖本善治に捧げた『花嫁のヴェール』という

詩を読んだ。「白いヴェールをあけて、私をよく見て下さい……」で始まる詩は、結婚への心意気を示すものであると言われている。賊軍と呼ばれた会津藩士の長女で、家柄も財産もなかったけれど、結婚という形式ではなく、自分は愛に生きたいという賤子の意志の強さに驚いた。

また賤子の作品を読むと、文学者、教師、妻、母、そのすべてに全力を注ぎながら、日々の葛藤もあったのではと思われ、箇所があった。幼いときに母親と死に別れ、養母との暖かい関係を築けなかった賤子が、理想の母親像を追い求めて奮闘したであろう姿が少し切なかった。

会津人にとっては無念の戦争が、ひとりの聡明な少女を横浜に呼び寄せ、そこでの教育が現在も読み継がれる児童文学を残したという、歴史の巡り合わせの不思議。若松賤子というすばらしい先輩と向き合わせてくれた、一冊の本との出会いに今も感謝している。

管理訪問を終えて

今年度の管理訪問は前期27校、後期18校の計45校で実施した。各学校とも学校経営ビジョンに基づきしっかりと教育活動が行われており、教職員と児童生徒の活気のある学習の様子を見ることができた。特に校舎内の掲示物がとても工夫されている学校が増えており、環境整備から「心を育てる」取り組みがなされていることに感心させられた。

教職員の不祥事防止

校内事務倫理委員会の実施状況は学校間の差が大きい。時間を生み出すことは容易ではないが、不祥事が起こってしまえばその対応に要する時間は膨大なものになる。絶無に向けて、県教委、当教育事務所からの冊子の活用、演習の実施などに、さらに積極的に取り組んでほしい。特に、速度超過等の交通違反、個人情報等の紛失、体罰、スクールセクハラ等の事故・事件防止には細心の注意を要する。

なお、課外活動、部活動等における独自集金の適正な執行についても管理徹底が必要である。

学校管理体制の改善・充実

法令が改正された勤務時間、子育て介護支援休暇等の内容については、更なる周知徹底が必要である。また、教職員一人一人の出勤・退勤時刻の管理については適切であり、累積したデータを、校務分掌の偏りのは正や健康管理に生かすこと

学校事故防止

全職員による日常の巡視・重層点検等の徹底を図り、施設、火気管理、可燃物撤去等を完全に行い、学校火災等学校事故の絶無に向けた取り組みが重要である。

が大切である。管理担当

総務社会教育課 News

平成22年度福島県放課後子どもプラン地区研修会開催！！

- 1 日 時 平成22年11月10日(水)
- 2 会 場 北会津公民館、北会津農村環境改善センター
- 3 参 加 者 会津域内の子ども教室・児童クラブでコーディネーターやスタッフとして活躍している関係者65名が参加しました。

4 研修内容

- (1) 活動紹介・情報交換・相談会
活動紹介市町村：会津若松市、金山町、会津美里町、柳津町、会津坂下町、西会津町

- (2) 実技演習

内容：子どもに人気の運動
講師：会津若松スポーツ・レクリエーション協会員

5 参加者の感想

- 自分のところではやっていない遊びを知ることができて勉強になりました。
- いろいろとみなさんの情報を持ち帰り、子ども教室にすぐにも役立てたいと思います。すごく楽しかったです。



研修会情報

- 1 研修名 「しつけ・学習習慣で子どもの生きる力を伸ばそう」(家庭教育サポートセミナー)
- 2 日 時 平成23年1月20日(木) 10:50～16:00
- 3 会 場 会津大学
- 4 内 容

- (1) 講話1 「子育て、今が旬！」
講師 元会津美里町本郷保育所長兼本郷幼稚園長 鶴賀 イチ 氏
- (2) 講話2 「可能性への挑戦～たった一つの命だから～」
講師 水戸昇教育相談所主宰 水戸 昇 氏
- (3) 基調講演 「学校・家庭・地域の連携で子どもたちの学力を上げる」
～全国学力調査・秋田県4年連続トップクラスの秘密～
講師 秋田大学教育文化学部教授 阿部 昇 氏

3学期の要請訪問利用促進について 学校教育課 指導担当

1 講義内容

番号	講義内容
1	生徒指導の現状と課題
2	新指導要領の趣旨に基づく教育課程の編成について
3	運動能力の向上を目指した体育指導
4	性に関する指導のあり方
5	算数科におけるPISA型学力について
6	国語科における授業づくり
7	新学習指導要領における学習評価について
8	特別でない特別支援教育～LD疑似体験を通して～
9	国語科における確認テストの活用と作成について
10	小学校外国語活動の指導について

※講義時間は、約1時間を想定しています。
※講義内容については、各校の要望に応じて調整が可能です。

2 申請の手続き等

各学校から市町村教育委員会を通し、電話での調整の後、要請訪問実施要項の様式2(校長会要項内)により「講師派遣申請」する。

- ①12月28日(火)まで電話にて仮申し込み(29-5320 担当 板橋)
- ②その後、様式2により講師派遣申請(1ヶ月前まで)

3 その他

旅費は、教育事務所で負担いたします。

本年度の要請訪問(「学びの習慣」を含む)は、11月末現在で計107件となりました。市町村教育委員会及び各学校からの要請ありがとうございました。

さて、例年3学期となりますと、学年のまとめや新年度の計画作成のために、要請訪問の依頼件数が減少いたします。そこで、会津教育事務所では、各学校のニーズに応え、3学期の要請訪問の利用促進を図るため、左記のような「講義」を実施内容とする要請訪問を受け付けます。学校課題解決のため、また、来年度の現職教育テーマ設定等のため、是非ご活用ください。

「ならぬことはならぬものです」

会津美里町教育委員会教育長 佐治 和則

ある会社の小学校の教科書に会津藩の「什の掟」が取り上げられた。「什の掟」で最も有名なのが「ならぬことはならぬものです」ということばである。このことばが脚光を浴びる理由は何となく分かる。



水戸黄門の「この印籠が目に入らぬか」と同じ響きを感じられるからである。

しかし江戸時代にこのことばが教えられた背景を押さえておかなければならないだろう。親や年長者に権威があり、親や年長者の言うことは聞かなければならないという教えが徹底していたという時代背景である。水戸黄門も天下の副將軍という権威を持っていたからこそ、印籠が威力を発揮したのである。今の時代に同じようにこのことばに説得力を持たせるためには、指導する側にそれ

だけの権威がなければならない。最初にことばありきではなく、指導する側に相手を従わせる権威が必要なのである。少なくとも、このことばを児童生徒に徹底させようとするならば、指導する側は、相手を納得させるだけの権威を身につける努力をしなければならないであろう。そういう努力があってはじめてこのことばが意味を持つのだと思う。

さらに付け加えれば、このことばは「社会には絶対的なルールがあるのだ、今は納得できないかもしれないが、とにかく従わなければならない」ということを意味している。これは、少し大げさに言えば、個人の考えを尊重し、理解させて、納得させて、本人了解のもとで進められてきた今までの指導の方法の転換を意味するものなのかもしれない。そうであれば、まずそのことをきちんと理解して使わなければ、子どもたちは混乱するであろう。

そのような意味を含む「ならぬことはならぬものです」であるが、今の社会状況、子どもの様子をみると、だからこそ是非今の子どもたちに浸透させたいと思う。

我がまちからの情報発信

「縄文と編み組み細工」

当町の遺跡は48ヶ所あり、うち19ヶ所が縄文時代の遺跡であります。このうち昭和60年から62年にかけて国道バイパス工事に伴って発掘調査された荒屋敷遺跡（縄文晩期、今から2400年前）は、木製品、植物繊維製品、漆製品が多量に出土したことで全国的に極めて重要な遺跡と評価されています。その中でも約10cm四方の2つの植物繊維製品（材料は不明）の出土品は、縄文時代に使われていたカゴかザルの一部分と推測されています。現在も使われているマタビザルと同じ「網代あみ」という編み方であり、一本一本の材料がきちんとした幅に揃えてあり、技術の高さがうかがえるものであります。

町では、昭和56年度から生活工芸運動を進めてきています。ヒロロ、マタビヤブドウ蔓などを材料としたバッグやザルを作る工人が100人を超すほどになり、その技術の継承に努めています。毎年6月には、会津工人まつりが催され県内外から多くの工人が集まり、作り手と使い手の交流の場として賑わいを見せています。

三島町教育委員会

植物繊維製品が出土したときは、一気に2400年前にタイムスリップしたような、まさしく現在の編み組み細工は、縄文時代から脈々と受け継がれてきたものであることに身震いするほどの驚愕を覚えたところでもあります。この地球上に生命が誕生してから何らかの形で後世に受け継がれ、現在営まれている私たちの生活があります。その途中での縄文や中世、近世の遺物・遺構を発見することにより、そのルーツを探ることとなりますが、ぜひ、縄文時代にふれ歴史のロマンを語り合っていきたいものです。



工人による作業の様子

作品と指導

習字

金山町立金山中学校
3年 菊地真美

「故郷」

金山中 菊地真美

故郷

「故」は縦長になりすぎず「郷」は横長になりすぎず書くことで二字のバランスが上手に取れています。

点画の連続を意識した行書の筆遣いができています。筆字のきれいな線を余白がさらに引き立てる構成が良いです。

指導者 佐藤寿広

工作

西会津町立野沢小学校
4年 平野龍聖

「物かけ鳥くん」



板に数本の直線を引いて、のこぎりで切りました。偶然できた形を組み合わせてみると、顔が少し斜めで愛嬌のある鳥くんができました。釘も斜めに打って鉛筆置きにしたり、長い棒の先にも物をかけたりできるようにしました。

指導者 山形美幸

絵

猪苗代町立翁島小学校
1年 渡部舜ノ介

「しましまティーシャツをきてみると・・・」



お話を読み聞かせ、一番おもしろかった場面を決めさせて描くようにしました。たこの足がいろいろな方向に動いている様子を描かせたのち、色をつけさせたり海賊を描かせたりしながら楽しく絵を仕上げるようにしました。

指導者 渡邊美智子

私の抱負

新採用養護教諭として



北塩原村立
第一中学校
養護教諭
仲山 裕美

北塩原村は、今年福島県で初めて「日本で最も美しい村」連合へ加盟した自然豊かな村です。生徒たちは落ち着いた環境の中で、素直にのびのびと成長しています。
新採用として赴任してからの六か月間は、小規模校とはいえ、健康診断や諸行事、部活動、そして新採用研修などに追われ、あっといふ間のことに感じました。その忙しさの中でも、生徒たちの諸活動にひたむきに取り組む姿勢や、日々成長している姿に励まされています。
私はまだまだ未熟で、周りの先生方に支えていただいているばかりですが、教えていただいたことを精一杯吸収して、養護教諭として一歩でも高められるよう努力し、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと思っています。

食事の大切さを伝えたい



会津美里町立
高田小学校
栄養技師
西山 実穂

夢だった学校栄養職員になって半年が経ちました。まだまだ落ち着かない私ですが、多くの方々に温かく支えられながら毎日を過ごしています。
配属校の子供たちから「給食おいしい」という言葉を聞く嬉しくて、励まされる思いです。献立を立てる時や衛生管理など、一つひとつのことに身が引き締まります。
私は、子供たちが生涯に渡って、元気で健康に過ごせるように、そのお手伝いをしたいと考えています。食事を大切にすることは、自分を大切にすることに繋がっていくと思います。食事がただ単に腹を満たす行為ではないことを子供たちに伝えていきたいです。焦らず、でも積極的に、これからも頑張ります。

人を引きつけるもの



福島県
会津自然の家
指導主事
大槻 隆志

なんとか火力を強くしようと汗まみれになりながら薪をくべ、うちわで風を送り続ける子がいる。体力に自信がない子がいても、課題を解決しなければ進めない設定が子どもたちの挑戦意欲をかき立て、高低差の大きな山道でも長い距離を歩き切ることができ。自然の家の活動には、子どもたちを引きつけ夢中にさせる何かがある。
課題が面白く適当な負荷があれば、子どもたちは細かく指示されなくても自ら挑戦し学ぶことができるということを、自然の家での勤務を通して改めて感じた。
より多くの人が気持ちよく利用し満足のいく活動ができるよう、これからも魅力あるプログラムと活動しやすい環境の整備に努めていきたいと思う。